



「個別最適な学び」と「協働的な学び」をつなぐ国
語科授業の創造：
「スーホの白い馬」の実践を通して

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2024-04-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 長屋, 樹廣, 竹林, 亨 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.32150/0002000204

「個別最適な学び」と「協働的な学び」をつなぐ国語科授業の創造 ～「スーホの白い馬」の実践を通して～

長屋 樹廣^{*1}・竹林 亨^{*2}

概 要

本研究では、小学校国語科の授業づくり、特に「読むこと」領域の授業について「個別最適な学びと協働的な学び」の視点から実践をし、検討をしてみた。とりわけ、授業づくりにおいては、「個別最適な学びと協働的な学びの接続」に焦点を当てた「国語科授業の創造」に取り組んだ。授業実践では、どのような手立てが子供たちの興味・関心を高め、教科の目標の達成につながる授業づくりに効果的であったかを検証するため、小学校2学年において「スーホの白い馬」を題材に授業を実践し、分析した。その結果、問題解決に向け「個別最適な学びと協働的な学びを充実させる単元構成」に留意した授業実践によって、本時の授業のみならず、単元全体における教科の目標の達成につながる子供の発言やノート（ロイロノートの記述を含む）等での記述が増えた、という効果が見られた。

1 はじめに

令和2年度から小学校の新学習指導要領が全面実施された。学習指導要領改訂に当たっては、2030年の社会と、さらにその先の子供たちの未来を見据えた初等中等教育が果たすべき役割が示されているものであったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の中、社会全体のデジタル化が推進され、学校の教育活動においてもこれまでと違った対応が求められてきた。

そのような中、国語科は、実生活で生きて働き、各教科等の学習の基本ともなる国語の能力を身に付けることや、各教科等における言語活動の充実を推進していく上でも大きな役割を果たしている。とりわけ、様々な事物、経験、思い、考え等をどのように言葉で理解し、どのように言葉で表現するかを学習対象として、自分の思いや考えを形成し深めることが、国語科の重要な学びであると考えられている。また、自分の思いや考えを深めるために、対象と言葉、言葉と言葉の関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着目して捉え、その関係性を問い直して意味付けることによって、「言葉による見方・考え方」を育てていくことが大切であるとされた。

そのようなことから、これらの学びに当たっては、子供たちが「何ができるようになるのか」という観点から身に付けるべき資質・能力を明らかにし、それを「どのように学ぶか」という授業改善の視点として、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、主体的・対話的で深い学びの実現につなげるカリキュラム・マネジメントの取組が一層求められているものと捉えた。本研究では、国語科における「個別最適な学びと協働的な学びを充実させる単元構成」をより重視した授業の

*1北海道教育大学附属釧路義務教育学校前期課程教諭（北海道教育大学教職大学院 2022年3月修了生）

*2北海道教育大学教職大学院（大学院教育学研究科高度教職実践専攻）釧路

創造について考察したい。

2 これから求められる授業の在り方

学校現場においては、社会の在り方が劇的に変わる「Society5.0時代」の到来や、新型コロナウイルスの感染拡大など先行き不透明な「予測困難な時代」の中で、子供一人一人が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手へと育成できるようにすることが求められている。

その中で、令和3年1月に中央教育審議会が『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～』（以下「令和3年答申」という）において「授業の中で『個別最適な学び』の成果を『協働的な学び』に生かし、更にその成果を『個別最適な学び』に還元するなど、『個別最適な学び』と『協働的な学び』を一体的に充実し、『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善につなげていくことが必要」であることを示した。

さらに、「令和3年答申」を踏まえて奈須（2021）は、教師の支援が必要な子供により重点的な指導を行うことなど効果的な指導を実現すること、一人一人の特性や学習進度等に応じ、指導方法・教材等の柔軟な提供・設定を行う「指導の個別化」と、基礎的・基本的な知識・技能等や情報活用能力等の学習の基盤となる資質・能力等を土台として、子供の興味・関心等に応じ、一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで、子供たちが自分自身の学習が最適となるよう調整する「学習の個性化」が大切であることを示した。さらに、「指導の個別化」「学習の個性化」をICT環境の活用や少人数によるきめ細かな指導体制の整備を進め、「個に応じた指導」を充実させる必要性について言及した。この「指導の個別化」と「学習の個性化」を教師の視点から整理したものが「個に応じた指導」であり、学習者の視点から整理した概念を「個別最適な学び」とまとめている。

また、「個別最適な学び」が「孤立した学び」に陥らないよう、探究的な学習や体験活動等を通じ、子供同士で、あるいは多様な他者と協働する「協働的な学び」を充実することも重要であるとした。とりわけ「協働的な学び」においては、集団の中で個が埋没してしまうことのないよう、一人一人のよい点や可能性を生かすことで、異なる考え方が組み合わせり、よりよい学びを生み出すことが大切であるとしている。

3 国語科における「個別最適な学び」「協働的な学び」

(1) 国語科における目指す資質・能力

小学校学習指導要領（平成29年告示）には、「学習の基盤となる資質や能力や現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力の育成のためには、～（中略）～『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善を、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して行うことが求められる。」とあり、国語科で育成すべき資質・能力について小学校学習指導要領では、「国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力」と規定している。また、「C 読むこと」領域の指導に当たっては、「構造と内容の把握」、「精査・解釈」、「考えの形成」、「共有」の四つの「学習過程」が位置付けられている。

筆者は、本研究紀要第12号において「学びの文脈を生かした国語科授業の創造 ～カリキュラム・

マネジメントの視点を生かして～」の中で、この四つの「学習過程」の前段に「学習目的の理解（見通し）」という段階を位置付けて、「ストーリー性のある単元デザイン」として記述している。

このような「ストーリー性のある単元デザイン」によって、指導する教師にとっても、子供たちが授業を通して、「何を」、「どのように学ぶか」が整理され、授業改善につながることを示した。

しかし、国語の授業改善を図るためには、学ぶことに興味や関心、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげたり、子供同士の協働の学習などを通じて「言葉による見方・考え方」を働かせ、自分の思いや考えを広げ深めたりするなど「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指すことが求められている。

これらのことを踏まえ、「個別最適な学びと協働的な学びをつなぐ国語科授業の創造」のために、「ストーリー性のある単元デザイン」で示した五つの「学習過程」＝「学習目的の理解（見通し）」「構造と内容の把握」、「精査・解釈」、「考えの形成」、「共有」を束ねる視点として、最後に、「自分の学習に対する考察（振り返り）」という段階を位置付け、「単元構成」とした。このことを、「小学校学習指導要領解説 国語編」や、平成28年8月に出された中央教育審議会教育課程部会の報告「国語ワーキンググループにおける審議の取りまとめについて」から整理すると、以下のようにまとめられる。

○学習目的の理解（見通し）

○構造と内容の把握

叙述を基に、文章の構成や展開を捉えたり、内容を理解したりすることである。

○精査・解釈

文章の内容や形式に着目して読み、目的に応じて必要な情報を見付けることや、書かれていること、あるいは書かれていないことについて、具体的に想像することなどである。

○考えの形成

文章の構造と内容を捉え、精査・解釈することを通して理解したことに基づいて、自分の既知の知識や様々な体験と結び付けて感想をもったり考えをまとめたりしていくことである。

○共有

文章を読んで形成してきた自分の考えを表現し、互いの考えを認め合ったり、比較して違いに気付いたりすることを通して、自分の考えを広げていくことである。

○自分の学習に対する考察（振り返り）

※「学習目的の理解（見通し）」と「自分の学習に対する考察（振り返り）」については、一連の学習過程が始まる前と終わった後にそれぞれ行うことに限定されるものではなく、終始一貫して意識しておくべき要素であることに留意する必要がある。

(2) 一人一人の学びを大切に「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な推進

本研究では、教科の目標を達成するために、単元や本時の学びに興味・関心を高め、子供自身が必然性を感じ、一人一人の学びを大切にすることを目指し、単元の学習活動を展開していく。

首藤（2023）は、「子供一人一人のふさわしい学習の意義・必要性」について言及している。「学習の内容・方法・素材などを選ぶ自由があり、学習のレベル・分量・進度が子供によって異なってもよいとするのが、『同時異学習』である。」「興味・関心・能力・特性が全員同じではない。～（中略）～学習の内容・方法・素材・レベル・分量・進度は子供一人一人応じる方がよい。」と述べてい

る。

また、白水（2020）は、「協働的な対話の意義」について言及している。「一つの問いにみんなで答えを出そうとする協調学習の場では、対話が考えの違いをもたらし、その違いを一人ひとりが何とかまとめようとして、各自の考えが深まります。」と述べている。

このような先行研究も生かしつつ、「個別最適な学び」と「協働的な学び」をつなぐ国語科授業の創造を図るため、五つの「単元構成」に「自分の学習に対する考察（振り返り）」を位置付け、子供たちの学びの過程において、どのような手立てが有効であったか検証し、考察していくこととした。

4 研究目的

『個別最適な学び』と『協働的な学び』をつなぐ国語科授業を創造するために、どのような手立てが有効であるかを検証し、授業改善の方途を明らかにしていくこと」を研究の目的とする。

5 研究方法

(1) 文献研究

中央教育審議会（令和3年答申）の捉え方をもとに「個別最適な学び」「協働的な学び」について整理するとともに、小学校学習指導要領解説（国語編）・奈須・首藤・白水の著書をもとに、授業づくりを構想した。このように実践した国語科授業づくりを、学習指導要領が示す教科の目標を踏まえ、「個別最適な学び」や「協働的な学び」の視点から、本実践の妥当性を検証していく。

(2) 実践研究

本実践は、2023年2月にかけて、北海道X大学附属Y小学校の2年1組にて行った。本学級は、筆者が1・2年生と持ち上がっている学級であり、授業の単元は、第2学年国語「スーホの白い馬」であった。

(3) 記述・発言分析

児童のノートや付箋・ワークシートの記述の中から、単元全体の目標を達成する記述を取り出し、分析した。さらに、抽出児童の記述の質の変化を分析した。

また、児童の発言の中から、単元全体の目標の達成につながる一単位時間や単元での発言を取り出し、全体的な変容を分析した。さらに、抽出児童の発言を分析した。

6 授業実践の概要

6-1 単元名

「スーホの白い馬」～『お話小箱』に、「とっておき紹介カード」を書き残そう～

6-2 単元の目標

- (1) 感想を表す語句の量を増やし、語や文章の中で使うことを通して、語彙を豊かにしたり、強く心に残ったところを紹介したりすることと関連させ、登場人物の心のつながりを見付けながら読むなど、読書に親しむことができる。
- (2) 場面の様子に着目して、スーホ・白馬を中心とする登場人物の行動を具体的に想像したり、文章

を読んで感じたことや分かったことを共有したりすることができる。

- (3) 進んで、物語で強く心に残ったところを見付けながら繰り返し読み、「とっておき紹介カード」で紹介しようとする。

6-3 評価規準 ※ () は、学習指導要領の指導事項を表す。

	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ア 感想を表す語句の量を増やし、語や文章の中で使うことを通して、語彙を豊かにしている。(1) オ イ 「とっておき紹介カード」で強く心に残ったところを紹介することと関連させ、登場人物の心のつながりを見付けながら読むなど、読書に親しんでいる。(3) エ	ア 場面の様子に着目して、スーホ・白馬を中心とする登場人物の行動を具体的に想像している。(エ) ◎ イ 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(オ) ○ ウ 文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。(カ) ◎	ア 物語で強く心に残ったところを見付けながら繰り返し読み、「とっておき紹介カード」で紹介しようとしている。

6-4 単元のデザイン (全14時間)

次	○学習活動・学習内容	手立て	評価の観点		
			知	思	態
1次	○これまで読書してきた経験を想起し、自分の「とっておき」の場面とその理由を交流する。 ○教師の「とっておき紹介カード」のモデル(「たぬきの糸車」)を見ることを通して、単元の見通しをもって学習計画を立てる。 ☆今まで獲得してきた読みの視点(ピース)を生かして、「とっておき紹介カード」をどのように完成させていくのか一人一人の学習計画を立てる。 【1~2時間目】	●教師のモデルを提示することや学習計画を立てる過程において、単元の見通しをもち、「とっておき」を発見したい気持ちを醸成し、学びの必要感をもてるようにする。 ●「スーホの白い馬」と過去の読書経験を比較し、△△の視点を中心に「とっておき紹介カード」にまとめるという見通しをもてるようにする。	イ		ア
	○「スーホの白い馬」を通読し、読後感を交流する。 【3時間目】	●スーホの白い馬に関する自分なりの感想をもつことができるように、サイドラインを引いたり、友達との共通点や相違点を確認したりすることができるようにする。		イ	ア
2次	○一人一人の学習計画に合わせ、「スーホの白い馬」を通読し、あらすじの大体を捉える。 【4~5時間目】	●物語の設定(時・場所・人物等)について考え、「スーホの白い馬がどのような話なのか」を理解できるようにする。	ア	ア	
	○一人一人の学習計画に合わせ、スーホと白馬がどのような登場人物なのかについて考える。 【6時間目】	●スーホと白馬がどのような登場人物なのかについて、叙述や挿絵を手掛かりに考えることができるようにする。	ア	ア	
	○一人一人の学習計画に合わせ、白馬がおおかみの攻撃を防いでいる様子等から、スーホと白馬の関係について考え、ロイロノートのメモ等に記述する。 【7時間目】	●スーホと白馬の会話文や行動について考えることを通して、スーホと白馬の関係を具体的に想像できるようにする。		ア	

次	○学習活動・学習内容	手立て	評価の観点		
			知	思	態
2 次	○一人一人の学習計画に合わせ、矢がささっているにもかかわらず、走り続けた白馬の様子等から、スーホと白馬の関係について考え、ロイロノートのメモ等に記述する。 【8時間目】	●「～つかまらないなら、弓でいころしてしまえ」などの会話文、「～さわぎ立てるみんなの間をぬけて、風のようにかけだしました」などの行動に着目し、場面の様子を具体的に想像できるようにする。		ア	
	○一人一人の学習計画に合わせ、白馬が夢に出てきた理由について考え、ロイロノートのメモ等に記述する。 【9時間目】	●「これから先、どんなときでも、ほくはおまえといっしょだよ」等の会話文、「白馬は、ひどいきずをうけながら、走って、走って、走り続けて～」などの行動に着目し、場面の様子を具体的に想像できるようにする。		ア	
	○一人一人の学習計画に合わせ、文章全体の「とっておき」の場面とその理由を話し合う活動を通して、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像したり、文章を読んで感じたことや分かったことを共有したりする。 【10時間目】 本時	●登場人物の行動・会話に着目し、場面の様子について想像を広げながら読んだり、文章を読んで感じたことや分かったことを共有したりすることができるように、共通点・相違点や根拠に着目することで、発揮した影響力を関連させることができるようにする。		ア	
	○一人一人の学習計画に合わせ、スーホの白い馬の「とっておき」の場面とその理由を「とっておき紹介カード」に記述し、交流する。 【11時間目】	●今までのノート・ロイロノートのメモ・板書等を振り返り、スーホの白い馬の「とっておき」とその理由を整理して、記述できるようにする。			ウ
3 次	○自分が選択した民話の「とっておき」の場面とその理由について考え、ロイロノートのメモ等に記述し、交流する。 【12時間目】	●自分が選択した民話の「とっておき」とその理由に着目することを通して、互いの思いを分かち合ったり、感じ方の違いを認め合ったりし、「とっておき」を紹介するための視点について考えることができるようにする。	イ		ウ
	○自分が選択した民話の「とっておき」の場面とその理由を「とっておき紹介カード」に記述する。 【13時間目】	●今までのノート・板書等を振り返り、自分が選択した民話の「とっておき」とその理由を整理して、記述できるようにする。			ウ ア
	○自分が選択した民話の「とっておき」の場面とその理由を記述した「とっておき紹介カード」を交流する。 【14時間目】	●学習に対する有用感や成就感を味わわせるために、自他の「とっておき」の解釈の違いから相手の考えのよさを伝え合う相互評価をさせたり、自分の考えを自己評価させたりする。			ウ ア

6-5 本時の展開 (10/14)

(1) 本時の目標

文章全体の「とっておき」の場面とその理由を話し合う活動を通して、場面の様子に着目したり、登場人物の行動を具体的に想像したりしたことを根拠に、文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。

(2) 本時の展開

教師の働きかけ (●発問、▲補助発問、■指示・説明) ○子供の学習活動		◆留意点 ※評価
<p>1、前時を想起する。</p> <p>・前時は、私は「人物の関係」を中心に読んできたよ。今日は、みんなの意見を聞きながら、「人物の関係」の「とっておき」とその理由をはっきりさせていきたいよ。</p> <p>・前時は、ほくは「終わり方」を中心に読んできたよ。今日は、他の人の読んだポイントを聞きながら、ハッピーエンドとバッドエンドについて考えを深めていきたいな。</p> <p>・前時は、「人物の行動」と「謎」を中心に読んできたよ。今日は、きっと、他の人の話を聞くに関連するところがあると思うので、「とっておき」とその理由をはっきりさせて、「とっておき紹介カード」がよりよく書けるようにしていきたいな。</p>		<p>◆「とっておき紹介カード」に書く内容を見直し、前時を想起することで、自他の「とっておき」の解釈の共通点・相違点を意識して、学習課題に取り組むことができるようにする。</p> <p>◆前時まで、より「スーホの白い馬」の「とっておき」の場面とその理由をはっきりさせたいと考えている子供の思考から、本時の課題につなげる。</p> <p>◆考えがもてていない子供がいた場合、「スーホや白馬の行動や様子で気になるところはある？」など、個別の声掛けをする。</p> <p>◆状況に応じて、個の学びを振り返る。</p> <p>◆状況に応じて、「似ている理由を考えた人はいる？」「違う理由を考えた人はいる？」などの共通点・相違点や「なぜそう思ったかわかる？」「他の人も同じ理由なの？」などの根拠を問うことで、発揮した影響力を関連させることができるようにする。また、「何を言ったか分かった？」「○○さんは、どう考えた？」などの意図的指名をすることで、話し合いの内容を確実に共有できるようにする。</p> <p>◆状況に応じて、個の学びを振り返る。</p> <p>◆状況に応じて、活動が停滞している児童に対して、「気になった意見はある？」「もっと聞いてみたい友達はいた？」など、個別の声掛けをする。</p> <p>※【思・判・表】</p> <p>◆文章全体の「とっておき」の場面とその理由を話し合う活動を通して、場面の様子に着目したり、登場人物の行動を具体的に想像したりしたことを根拠に、文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。</p>
<p>「スーホの白い馬」の「とっておき」とその理由をレベルアップさせよう。 ～とっておき紹介カードへの道～</p> <p>2、文章全体を通した「とっておき」の場面とその理由について考える。</p> <p>○一人一人の学習計画に沿って整理してきた「とっておき」の場面とその理由を全体交流し、共有する。</p>		
<p>【会話文に着目しながら読む】</p> <p>◎「これから先、どんなときでも、ほくはおまえといっしょだよ。」</p> <p>○スーホと白馬の「絆」がよく分かるから、「とっておき」だよ。</p> <p>○つらいことがあっても、一緒に乗り越えていこうという気持ちを感じられるから、ここが私の「とっておき」かな。</p>	<p>【行動に着目して読む】</p> <p>◎「白馬は、ひどいきずをうけながら、走って、走って、走りつづけて、大すきなスーホのところへ帰ってきたのです。」</p> <p>○白馬がひどい傷を受けたのは、マイナスだけど、それよりも大好きなスーホに会いたい気持ちが強かったからとっておきだよ。</p>	
<p>【登場人物・二人の関係に着目しながら読む】</p> <p>◎「白馬は、とのさまの手からたずなをふりはなすと、さわぎ立てるみんなの間をぬけて、風のようにかけ出しました。」</p> <p>○白馬は、うそつきの殿様と一緒にいるよりも、優しくしてくれるスーホのところに帰ろうとするところが「とっておき」だよ。</p>	<p>【お話の流れに着目して読む】</p> <p>◎「わたしのほねやかわや、すじや毛をつかって、がっきを作ってください。そうすれば、わたしは、いつまでもあなたのそばにいられますから。」</p> <p>○「スーホは、とても歌がうまく」とあるので、白馬がスーホのことをしっかりと理解しているところが、「とっておき」かな。</p>	
<p>【会話・想像に着目して読む】</p> <p>○私は、「これから先、どんなときでも、ほくはおまえといっしょだよ」という約束が、スーホと白馬の絆となっていることや「～がっきを作ってください。そうすれば、わたしは、いつまでもあなたのそばにいられますから。」のところがつながっていて、死んでしまっても楽器として一緒にすごしていくというところが、「とっておき」かな。</p> <p>○自分が気になる視点やさらに話し合いたい相手などを確認する。</p>		
<p>3、文章全体を通した「とっておき」の場面とその理由を別の視点で考える。</p> <p>○今までと別の視点で「とっておき」の場面とその理由を考え、さらに追究していく見直しをもてるように交流する。</p>		
<p>【マイナス・プラスに着目して読む】</p> <p>◎「スーホは、白馬のゆめを見ました。」</p> <p>○白馬が死んでしまって、マイナスだけど、白馬と夢で会えてうれしかったところが「とっておき」だよ。「ほくはおまえといっしょだよ」という約束をしたから夢で会えたと思うな。そして、関係ともつながるね。</p>	<p>【場面の様子を想像し、広げて読む】</p> <p>◎「スーホの作り出した馬頭琴は、～草原中に広まりました。～その美しい音に耳をすまし、一日のつかれをわすれるのでした。」</p> <p>○スーホと白馬の大事な気持ちが入っているから「とっておき」だと思う。私が書いた馬頭琴ができた理由のなぞとつながるよ。</p>	
<p>4、本時の振り返りをする。</p> <p>●学習したことを基に、これからさらに追究していきたい「とっておき」の場面とその理由を一人一人の学習計画に合わせて整理しておきましょう (ロイロノート・ノート・付箋等)。</p>		
<p>○私は、「白馬が楽器を作ってほしいと言ったところ」で、スーホの上手な歌声に合わせて、自分の音色で演奏したかったという思いがあったし、白馬が死んでも、ずっと二人と一緒にいられる等の会話をもっと追究したいな。</p>		

7 授業実践の考察

7-1 児童の姿（記述や発言）を通じた「単元構成」の検証

(1) 学習目的の理解（見通し）

「単元構成」の導入では、子供たちが「学習目的の理解（見通し）」をもつことができるように留意し、一人一人の「学習計画」を立てられるように指導をした。「学習計画」とは、これまで読書してきた本からお気に入りの場面を自分の「とっておき」として、その理由などを書き入れ、交流するための「紹介カードづくり」にまとめるための見通しを立てたものであり、その紹介カードは、図1の「お話小箱」に蓄積される。



図1 お話小箱

子供たちは、1年生の後期からこのような「お話小箱」を日常的に活用し、学習履歴として、読書の記録や国語科の学習で学んだことをこの小箱に蓄積してきている。

本実践では、その「お話小箱」に入れる「とっておき紹介カード」の作成モデルを教師が見せることによって、単元の見通しをもてるようにした。

「するぞうくんが、こんな感じで書いてみたのですが、イメージできそうですか？」との教師の問いかけに、子供たちからは「あ～なるほど、『とっておきとその理由』ね。これなら、イメージできるよ」、「これなら学習計画を立てることができるかもしれない」という発言があった。また、「お手紙で勉強したように、どんなお話を考えて…」、「白馬がどうして楽器を作ってほしいと言ったのがよくわからなかった」、「どうして、白馬はスーホの夢に出てきたのか？」など、これまでの単元で学んできた経験なども活用し、積極的に、かつ納得感をもちながら、子供たち一人一人が「学習計画」を立てていくことができた。

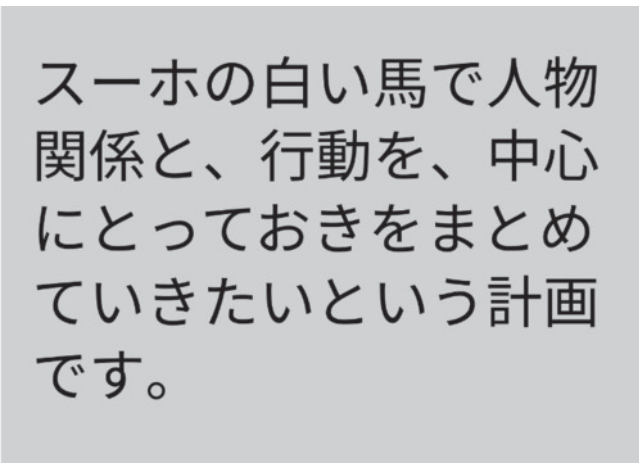


図2 抽出児のロイロノートの記述



図3 一人一人の学習計画の掲示

「個別最適な学び」の視点としては、子供たち一人一人が、これまでの学びを生かして、自分なりに課題設定をし、自分の課題を追究していくことに意味や価値を感じている姿が見取れた。例えば、「〇〇と〇〇の二つを追究してみたい」、「どうしてかという、登場人物の関係と行動は関係しているから」などの発言が見られ、「スーホの白い馬」の学習材に出会った子供たちは、自分たちが今ま

で学習してきた「お話小箱」に「とっておき紹介カード」を入れるという単元のゴールに向かって、目的意識をもちながら、「学習計画」を立案している様子が把握できた。今回、一人一人の学びの意識に合致した課題設定の場面では、図2のようにロイロノートで作成することによって、タブレットでいつでも見ることができるようになるとともに、図3のように教室にも紙媒体で掲示し、誰がどのような課題を追究しているのかを一目で見ることができるよう配慮した。このことは、自分が追究したい課題と似ている仲間を探することができることによって、「協働的な学び」の視点にもつながっていく学習の見通しとなった。

(2) 構造と内容の把握

この段階の「単元構成」では、これまでの学習の流れや学習経験を生かし、子供たちが「一人一人の読みを生かして、あらすじをみんなで交流する」という学習活動を展開してきた。下の板書は、4・5時間目、スーホの白い馬のあらすじについて意見交流をしている板書である。



図4 「構造と内容の把握」板書

一人一人の読みを共有し、「あらすじの大体を読む」という学習活動は、「とっておき紹介カード」作成に向けて、一人一人の子供たちの課題は違って、物語への思いや考え方を深めていく交流の場として、全ての子供たちの「単元全体の学習活動を支える」ものにつながった。

子供たちからは、『『どうして、こういうがっきができたのでしょうか。』という文があって、説明文の問いの文みたいだね』、「この問いの文みたいなものがお話を最後まで読んでいくと解決できるようになっているよね」など、これまでの学びを生かして、物語を大きく捉える発言が見られた。

また、「スーホは貧しい羊飼いだよね」、「年をとったおばあさんと二人きりで暮らしていたよね」、「大人に負けないくらいよく働くんだけよね」、「スーホはとてもうたがうまかったんだよね」など、スーホの人物設定についても、視点は違っていても、一人一人が物語の本文をしっかりと読んであらすじをつかんでいる様子が、子供たちの発言からも見取れた。

さらに、「おおかみに食べられないように、地面に倒れてもがいている馬をスーホが抱きかかえて帰ってきた」、「白馬がおおかみの前に立ちふさがり、白馬を守ったよね」、「『これから先、どんなときでも、ぼくはおまえといっしょだよ』と言っていたよね」、「競馬で一等になったのに、銀貨を3枚くれただけだし、娘との結婚も知らないふりをする殿様はひどいよね」、「しかも、スーホを家来に殴らせたり、白馬を取り上げたりして、嫌だなんて思ったよ」など、あらすじを捉える中にも、所々に自分の考えと関連させて発言する様子が見られた。

「弓矢をたくさん射られた白馬は、頑張って、頑張って家までたどり着いてすごいと思ったよ」、

「次の日、白馬は死んでしまったよね」、「『わたしの骨や皮やすじや毛を使って、楽器を作ってください。そうすれば、私は、いつでもあなたのそばにいられますから』と夢の中に、白馬が出てきたよ」、「スーホは、どこに行くときにも馬頭琴を持って行ったんだよね」、「馬頭琴があることで、スーホと白馬がずっと一緒なんだよね」などの意見が出され、一人で読んだときには見えなかったあらすじの全体像や言葉と言葉のつながりを交流しながら、あらすじを学級全体で共有することができた。

(3) 精査・解釈

今回の授業実践で行った10時間目の授業の目標は、「文章全体の『とっておき』の場面とその理由を話し合う活動を通して、場面の様子に着目したり、登場人物の行動を具体的に想像したりしたことを根拠に、文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる」である。(6ページ参照)

授業の導入場面では、前時の「振り返り」を想起した子供からは、「前時は、『人物の行動』と『謎』を中心に読んできたよ。今日は、きっと、他の人の話を聞くと関連するところがあると思うので、『とっておき』とその理由をはっきりさせて、『とっておき紹介カード』がよりよく書けるようにしていきたいな」など、「とっておき紹介カード」に書く内容を見通して、より「スーホの白い馬」の「とっておき」の場面とその理由をはっきりさせたいと考えている子供の思いから本時の課題につなげていくなど、学習に対する子供自身の必然性、必要感が高まっていった。

このことについて、「〇〇と△△で迷っている」、「『いいな』はあるけど、『とっておき』かどうかは分からない。理由もまだはっきりしない」などの子供たちの思いをもった発言を全体で取り上げた。

また、授業での全体交流では、『とっておき』の場面として、「スーホが白馬を助けたところ」、「スーホが殿様に逆らったところ」、「白馬が矢を射られたにもかかわらず、スーホのところへ戻ったところ」、「最後に馬頭琴を作ったところ」の四カ所が子供たちから出された。

課題追究の場面では、自分が設定しているテーマと似ている仲間と交流することで考えを広げたり、交流の中では、「矢で射られた白馬がスーホのところに戻ったところと馬頭琴をつくったところは、みんなの意見を聞いて、選べないくらいどちらも『とっておき』になった」と振り返るなど、自らの考えを深めたりしている姿が見取れた。

「とっておきの場面とその理由」を交流する視点としては、「会話文」、「行動」、「人物関係」、「お話の流れ」、「想像」、「マイナス・プラス」などが共有され、一人一人の学習計画の視点に沿って、「『白

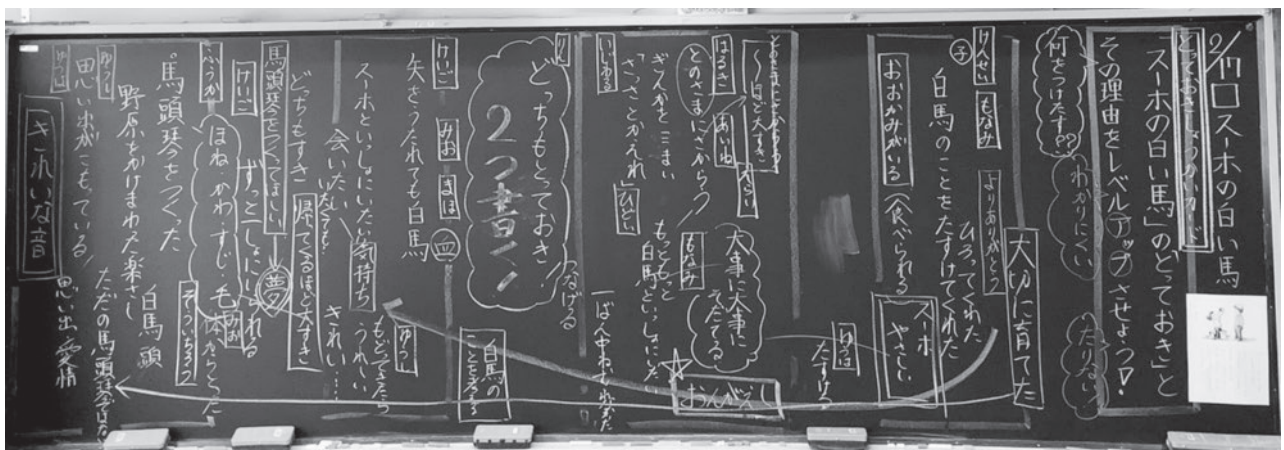


図5 「精査・解釈」板書

馬が楽器を作ってほしいと言ったところ』で、スーホの上手な歌声に合わせて、自分の音色で演奏したかったという思いがあったし、白馬が死んでも、ずっと二人が一緒にいられる等の会話をもっと追究したい」、「『スーホと白馬が夢で会ったところ』で、その理由は、『どんなときでも一緒だよ』という約束をしていて、二人の関係性について深めていきたい」など、本時の学びを生かして、さらなる追究をしていきたいという発言や、この後の追究への道筋を思考している姿が見られた。

(4) 考えの形成

子供たちは各自が立てた「学習計画」に沿って、ロイロノートなどのメモを基に、「とっておき」の場面や、その場面を選んだ理由をまとめていった。授業では、友達との交流などを通して、自分の考えを広げたり、深めたりして、子供たちは自分の感想や考えを「とっておき紹介カード」にまとめてきた。

図6は、物語の大体を捉えつつ、場面の様子に着目し、登場人物の具体的な行動を根拠に、物語を読んで感じたことや、分かったことを「とっておき紹介カード」にまとめたものである。

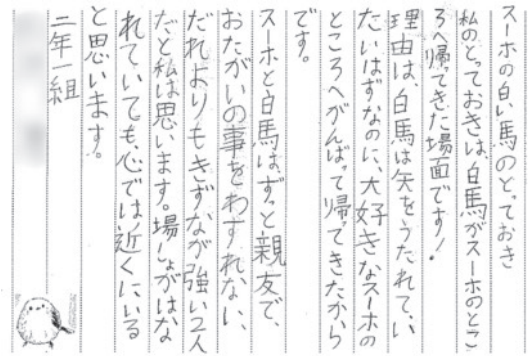


図6 抽出見のとっておき紹介カードの記述

(5) 共有

単元を通して、これまで子供たちが、読んできた自分の考えやその根拠となる情報を書き溜めた「とっておき紹介カード」を交流することによって、お互いのよさを認め合ったり、自分の学びの成果を実感したりすることができた。

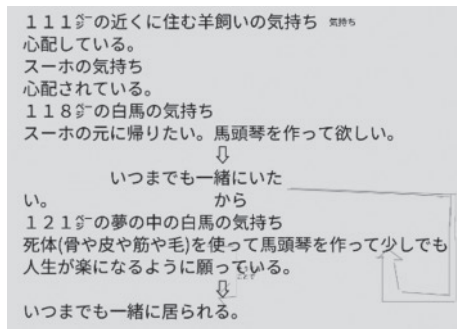


図7 ロイロノートの記述



図8 協働的に関わる姿

「この『とっておき』は、ぼくの考えと少し違うけど、わかるな」、「この『とっておきの理由』は、なるほどと思った」などの話し合いは、思いや考えを共有するだけでなく、自己の学びの成果を実感する場面ともなっていた。

また、これらの学習活動を通して、自分の考えを広げたり、深めたりして、ロイロノートや「とっておき紹介カード」を更新していく子供の姿が見られた。

(6) 自分の学習に対する考察（振り返り）

振り返りは、一連の学習過程として単元の終末に限定されるものではなく、一単位時間での学びにおいても位置付けていった。

子供たちの振り返りでは、「今回の『スーホの白い馬』の学習では、自分で「学習計画」を立案し、自分で課題を決めて追究していくことが楽しかったです。友達とロイロノートで書いたことやその理由を交流して、自分が気付けなかったことがわかって、考えが広がりました」とか、「自分で課

題を決めて追究していくことができ、うれしかったです。今までは、先生やみんなと一緒に学習していくことが多かったけど、自分の必要なことを選んで学習できて、ちょっとレベルアップできたと思いました。」などのノートへの記述が見られた。

このような振り返りの記述を通して、「個別最適な学び」として子供たちが自らの「学習計画」を立案し、「協働的な学び」を通して、自分の考えだけでなく、学習方法や進め方についても学びを深めている姿を見取ることができた。

7-2 「個別最適な学びと協働的な学びを充実させる単元構成」の検証

本授業の単元構成においては、「学習目的の理解（見通し）」、「構造と内容の把握」、「精査・解釈」、「考えの形成」、「共有」という「ストーリー性のある単元デザイン」の学習過程に、「自分の学習に対する考察（振り返り）」を位置付けて展開をした。その中で、「個別最適な学び」と「協働的な学び」をどのよう留意したかを検証した。

(1) 学習目的の理解（見通し）

この段階においては、一人一人の学習計画を立てるなど「個別最適な学び」の視点を重要視した。また、他の仲間の「学習計画」を見たりできる環境構成をすることによって、他者との交流を誘引するように配慮した。その結果、各自のロイロノートの記述を共有し、考えを交流するなど、「協働的な学び」につながることができた（7ページの図2、図3を参照）。

(2) 構造と内容の把握

この段階においては、一人一人の読みを基に、物語の「構造や内容の把握」を進めるために、「協働的な学び」を子供たちが対話的な学習によって展開できるよう配慮した。その中で、児童Aは振り返りの際に「お話のつながりが見えてきた」と記述するなど、一人で読んだときには見えなかったあらすじの全体像や言葉と言葉のつながりを読むことができた。

(3) 精査・解釈 (4) 考えの形成 (5) 共有

これらの段階においては、子供たちの個々の気付きや考えを表出するとともに、それを土台として個々の考えを対話的な学習によって展開できるよう配慮した。とりわけ、個々の気付きや考えを表出する方法については、本来、多様化されていたり、選択できたりするなど「個別最適な学び」を展開すべきところではあったが、子供たちの学習経験を踏まえ、ロイロノートの活用と板書などによる場面設定に留まった。

授業場面では、児童Bは、「矢で射られた白馬がスーホのところに戻ったところと馬頭琴をつくったところは、みんなの意見を聞いて、選べないくらいどちらも『とっておき』になった」との発言があった。この発言には、仲間との「協働的な学び」によって、子供自身の考えが深まった状況が見取れた。

(6) 自分の学習に対する考察（振り返り）

単元構成において「自分の学習に対する考察（振り返り）」については、一連の学習過程が終わった後に行うものと限定するのではなく、終始一貫して意識しておくべき要素であると位置付けている。このことから、それぞれの一単位時間の学びの中で、自己の「学習計画」、そこで決めた課題の

追究、学びの方法、自身の気づきの言語化などに留意する必要があると考えた。

8. まとめ

本研究では、『個別最適な学び』と『協働的な学び』をつなぐ国語科授業の創造について、授業実践とその単元構成の在り方の検証を述べてきた。国語科の授業を通して、子供が言語能力を高めていくためには、何よりも授業者の意図的・計画的な授業（単元・本時）構成が大切であると考えた。

このことから、学習指導要領で示されている「構造と内容の把握」、「精査・解釈」、「考えの形成」、「共有」の学習過程とその前段に「学習目的の理解（見通し）」を位置付け、「ストーリー性のある単元構成」を検討してきた。しかし、子供たちが自ら学習に主体的に臨み、学習への意欲を継続できるようにするためには、各学習場面における「自分の学習に対する考察（振り返り）」を丁寧に実践していくことが大切であると感じた。

今回、子供たちは、2年間の学習の集大成として「お話小箱に残す」ことに必要感をもち、「学習計画」、「見通し」をもちながら、一人一人の「学習計画」をノートに書く、付箋に書く、ロイロノートにまとめる、白い大きな紙にまとめる等、一人一人が選択した方法で課題解決への追究する姿が見られた。そして、毎時間、毎時間の学習を子供たちが意欲的に取り組めた原動力は「振り返り」であったと考えた。

また、一人一人が追究を進めてきた読みを、時には一人で、時にはペア・グループ等の少人数で、時には全体で協働的に対話を進めることで、自分自身の読みを広げたり、深めたりすることができた。友達の読みが自分自身の読みに生かされたり、自分の読みが友達の読みに生かされたりする姿が見られるなど、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の接続においても、大きな成果が見られた。

一方、課題として、学ぶ側に立つ指導・支援において、さらなる一人一人の学びのストーリーの構築を目指していく場面においては、指導の個別化、学習の個性化など「個に応じた指導」の充実を図ること、つまり「個別最適な学び」を一層重視することが求められる。このことについては、子供たちの日常の学習においても、意図的・計画的に様々な経験を積ませ、学年の発達段階に応じて、学習内容や学習方法などを子供たちに委ねる場面を設定するなどして、今後も授業改善を推進したい。

このことが、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させるとともに、子供たち一人一人の学びの必然性や「学習計画」を基に『個別最適な学び』と『協働的な学び』をつなぐ国語科の単元構成」を構築していく視点になるものと考え、今後、実践研究に努める所存である。

【参考・引用文献】

- ・倉澤栄吉（1979）『読解指導の方法』新光閣書店。
- ・倉澤栄吉（1988）『倉澤栄吉国語教育全集』角川書店。
- ・首藤久義（2023）『国語を楽しく』東洋館出版。
- ・白水始（2020）『対話力』東洋館出版。
- ・中央教育審議会答申（2021）『『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～』（https://www.mext.go.jp/content/20210126-mxt_syoto02-000012321_2-4.pdf（最終閲覧日：2023年10月31日））
- ・中央教育審議会教育課程部会報告（2016）「国語ワーキンググループにおける審議の取りまとめについて」
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/068/sonota/_icsFiles/fieldfile/2016/09/12/1377097.pdf（最終閲覧日：2023年10月31日）

- ・長屋樹廣（2022）「子ども思考が連続する授業づくり～子どもの『問い』を出発点として」『月刊国語教育研究』608, 2022年12月号, 日本国語教育学会, pp.50-55.
- ・長屋樹廣・竹林亨（2022）「学びの文脈を生かした国語科授業の創造 ～カリキュラム・マネジメントの視点を生かして～」『北海道教育大学教職大学院研究紀要』第12号, pp.91-103.
- ・奈須正裕（2021）『個別最適な学びと協働的な学び』東洋館出版.
- ・日本国語教育学会（1992）『ことばの学び手を育てる 国語単元学習の新展開 理論編』東洋館出版.
- ・日本国語教育学会（2010）『豊かな言語活動が拓く 国語単元学習の創造 理論編』東洋館出版.
- ・日本国語教育学会（2010）『豊かな言語活動が拓く 国語単元学習の創造 小学校低学年編』東洋館出版.
- ・浜本純逸（2011）『国語科教育総論』溪水社.
- ・文部科学省（2018）『学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編』東洋館出版.